

事例名	分かりやすい情報発信
チーム名 【所属名】	分かりやすい情報発信チーム(①明日京チーム、②統計チーム) 【計画推進課、企画統計課、戦略企画課】
メンバー氏名	本間雅人ほか計画推進課職員、佐々木治ほか情報分析担当職員、大饗秀和
アピール ポイント	<p>アセッサー、所属長がこの取組のアピールポイントを記載してください。</p> <p>① <<所属長: 計画推進課長 磯崎 弘規>> 周知用印刷物ごとの役割やコンセプトづくり、マンガ版のシナリオであるプロット案作成、下書き段階のネーム(イラスト・セリフ・コマ割り等)の点検を計画推進課全員が協力</p> <p>② <<所属長: 企画統計課長 荒木 恵都子 >> 教材を作成することで担当職員だけでなく、課のすべての職員が機会があれば、いつでもわかりやすく情報が発信できるツールとして活用できる。</p> <p>① <<アセッサー: 政策企画部 勝山 享>> マンガのシナリオを府民生活に関連した内容にすることによって、府民が主役である「明日の京都」であることをアピール</p> <p>② <<アセッサー: 政策企画部 企画統計課 佐々木 治 >> 統計グラフコンクールや統計を利用したクイズを通じて統計の意味と重要性への気づきを促し、統計の啓発普及に資する。</p>
取組の目的	<p>この取組の目指すところ、あるべき姿、ゴールを記載してください。</p> <p>① 広く府民に「明日の京都」の周知を図り、「明日の京都」の実現に向けた行動がなされること</p> <p>② 小中学生に統計に親しみを持ってもらうこと。</p>
取組の ターゲット	<p>この取組の「顧客」「ターゲット」はだれか、記載してください。</p> <p>① 20～30歳代の若年層</p> <p>② 小中学生及び教員</p>
取組内容 プロセス	<p>取組内容とそのプロセスを具体的に記載してください。</p> <p>① 「明日の京都」の中期計画・地域振興計画の改定に併せて、認知度を高めるために、府政に関心が薄い方々(若年層の認知度が特に低い)にも視覚的に訴えることができ、若年層になじみのあるマンガに着目。大学の協力も得ながら、改定のポイントを府民生活に関連した内容のマンガ版パンフレットを作成。</p> <p>② 個人情報保護の意識の高まりを背景に統計調査環境が厳しくなり、統計の重要性を広く府民に理解して頂く必要性が強まっている。その様な中、統計の重要性に鑑み、学校教育のカリキュラムに統計の授業が組み込まれたこともあり、子どもたちにより統計に親しみ身近に感じてもらうために、従来からある統計こどもページとともに、小中学生向けの教材を作成し、統計出前講座や府庁に来庁する小中学生への統計授業に活用。</p>
成果	<p>この取組の成果を記載してください。</p> <p>① 将来の府を支える20～30歳代の若年層のはじめ、広く府民に「明日の京都」を分かりやすく認知して頂くツールができ、今後、これを活用。</p> <p>② 平成26年度には出前講座4校(中2校、小2校)、府庁見学5校(小5校)の実績があり、大変好評であり、授業を受けた子どもたちの統計への理解が深まった点(これらの学校から京都府統計グラフコンクールに123点(応募総数433点)の応募)。</p>
工夫した点	<p>どのような工夫によって成果につながったか記載してください。</p> <p>① ストーリーが計画改定のポイントごとに完結した紙面構成にすることで、関連分野のイベントなどでの周知、ホームページや府民だよりへの掲載など、パンフレット以外での活用も想定。</p> <p>② 教育現場相手の事業なので、だまって待っていても依頼が来ない。過去のグラフコンクール参加校を中心に直接先生に電話で営業をかけ、出前講座のための時間をとってもらっている。また、学校毎に希望に添えるような形で内容を変更している。</p>
今後の 展開	<p>今後、この取組をどのように発展させていくか記載してください。</p> <p>① 京都府主催イベントでのポスター掲示やチラシ配布、府民だよりへの掲載など、親しみやすいマンガを活用した「明日の京都」の認知度を高める広報展開を計画。</p> <p>② 出前学校数を増やし、講師や教材も充実させ、統計の啓発普及に資するだけでなく、人に説明する作業や教材の作成を通じて職員のモチベーションアップや、わかりやすい統計の推進に資していく方向で発展させていきたい。</p>